

いろいろな角度から眺めてみました。

表現するか・く・な・ん。今年の鶴南の合言葉です。(詳しくは、「校長の窓 vol.4」をご覧ください)

学校生活に慣れてきた小学部1年生の子どもたちも図工の時間に表現することを楽しんだようです。「すきなものいっぱい」のテーマで、全員が、手や体全体を働かせて画用紙の隅々まで「いっぱい」に表現しています。「すきなもの」は、自分が表したい好きなものを思い付いて、それをイメージしながら表現している子供がいます。また、自分の手の動きから生まれた形に気づき、そこで見つけた自分の好きな形を何度も表現している子供もいますね。どちらも、自分の思いを大切に「すきなものいっぱい」に表現することができました！

ここから視点を変えて絵を眺めてみましょう。子どもの絵には、成長・発達の土台として重要な力、具体的には、「ボディ・イメージ(身体意識能力)」の発達について知ることができます。

【縦の線と横の線の発達、円の成長】については、一般的に手首の動きで「点」を描くことから始まり、次に「横線」、「縦線」が引けるようになります。徐々に、「はじめとおわりのある線」が引けるようになり、「閉じたマル」が描けるようになります。そして、「円」です。さらに、円と線を組み合わせて「人」等を表現していきます。

②③④では、縦の線、横の線が描かれています。よく見ると閉じたマルのような形も現れています。はじめとおわりのある線や、閉じたマルを練習する段階へと少しずつ成長しているようです。

【身体画】については、一般的に丸の中に目を描いた「頭」を描くことから始まり、頭から直接、直線で「足」が描かれます。頭には、目、鼻、口といった「顔」にかかわる各部位の意識形成が比較的早くでき上がるのに対し、足や手といった体の「末端の部位」の身体意識の形成は後からでき上がっていきます。「胴体のある人」を描く時期へと移行してからは、自分の体には、頭が一つ、手が2本、足が2本、指は5本など、体の部位やその位置関係を含めた、体の構造や機能についての理解の深まりとともに、大人が描くような「人」の絵に近づいていきます。

①では、「円」と線を組み合わせて「かお」らしきもの、よく見ると胴体のような形も現れています。⑤では、「くるま」のようなものが描かれています。これらの絵は、三角や四角や円らしきものが記号のように象徴的に表す時期(象徴期)に少しずつ成長しているようです。子どもの思いを受け止めながらお絵かきを見守ってあげる時間が、子どもの自己肯定感を育み、心理的な安定をもたらしていきます。

⑥は、「人」ですね。自分でしょうか。「自分のそばにはパパやママがいる」「お花も自分と同じ空間にある」というように自分を中心に人や物との関係を理解し描いている時期に成長しているようです。なお、⑥の絵に象徴されるように、まだグーの手に指が生えていないボディ・イメージ段階の子どもに対し、指先を使って〇〇しなさい！などの要求自体が、今はまだ難しい子どもが中にはいます。ですから、学校では、指先を使ったダイナミックな遊具あそびなどを楽しみながら、指先への意識を高めるような自立活動の勉強もがんばっていると聞いています！



もっと自由な発想と挑戦を楽しむ境地で鶴南の教育を創る
- 「R6 年度 学校運営方針」でめざす！ -